



# 伊都消防署便り

第36号

平成24年3月1日

編集と発行

伊都消防組合

伊都郡かつらぎ町

妙寺126-12

TEL 0736-22-0119

FAX 0736-22-1215



妙寺保育所の園児による防火パレード

- P 2 管理者就任挨拶
- P 3 年間行事・新人消防士の決意
- P 4 「一日救急隊」体験レポート
- P 5 感謝状贈呈・甲種防火管理講習案内

- P 6 防火ポスター・防火標語入賞作品
- P 7 職場体験・防火パレード
- P 8 消防白書2011

**春季全国火災予防運動実施中（3月1日～3月7日）**



**火をつけた あなたは消すまで 責任者**



平成23年度伊都消防組合防火標語 最優秀賞 妙寺小学校 矢田詩帆吏 さん

## 管理者就任挨拶



管理者

井本 泰造

住民の皆様には、日頃から消防行政の推進に深い御理解と御協力を賜り、心から厚く御礼を申し上げます。

昨年10月に、かつらぎ町長に就任し、併せて伊都消防組合管理者に選任され、4か月余りが経過いたしました。

さて、当消防組合が広域消防として発足して早いもので31年が経過いたしました。その間、住民の生命・身体・財産の保護を最大の使命として消防力の増強、施設の整備充実、防災力の強化等を図りながら、着実に歩んでまいりました。

これもひとえに、住民の皆様をはじめ、消防団並びに関係各位の多年にわたるお力添えの賜物と、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年の3月には、我が国の観測史上最大規模の地震と巨大津波により、東日本沿岸各地が想像を絶する壊滅的な被害を被った東日本大震災が発生いたしました。また、9月には、和歌山県でも台風12号の集中豪雨により、紀南地域を中心に甚大な被害が発生するなど、自然の驚異を改めて痛感すると

もに、防災対策の重要性を実感しております。

近年、当地域におきましても、大規模地震発生の切迫性が指摘されております。また、住民の皆様も昨年のたび重なる自然災害を目の当たりにして安心・安全に対する関心が一段と高くなっております。消防に寄せられる期待はますます大きくなっており、

当消防組合といたしましては、ますます高まる住民の負託に応えるため、今後更なる防災体制の充実強化を図り「災害に強く、安全で安心して暮らせるまちづくり」を目指し、全力で取り組んでまいりますので、皆様の今後より一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。併せて皆様方の御健勝と御多幸を御祈念申し上げます。私の就任の挨拶とさせていただきます。



管理者特別点検の様子

## 伊都消防組合・消防署の 今年の主な行事

- 一月 伊都消防組合管理者特別点検  
消防出初式（かつらぎ町・橋本市・九度山町）  
震災対策職員招集訓練実施  
文化財防火デーに伴う消防訓練参加
- 三月 春季全国火災予防運動実施  
東日本大震災に伴う全国緊急消防援助隊職員派遣  
（二回・十名）
- 四月 新規採用職員任用（二名） 県消防学校入校  
初任教育 第三十五期
- 五月 かつらぎ町役場新規採用職員研修（十二名）
- 六月 心肺蘇生法講習会（保育所・幼稚園・小学校など）
- 八月 かつらぎ町防災訓練参加（四郷地区）
- 九月 救急週間に伴う看護師等の救急車同乗研修  
普通救命講習開催（一般住民対象）  
台風十二号による洪水被害に伴う職員災害派遣  
紀南地域（二回・九名）
- 十月 和歌山県消防職員意見発表参加  
高野口中学校（五名）及び河根中学校（一名）  
職場体験学習実施
- 十一月 笠田高校（五名） 就業体験学習実施  
橋本市総合防災訓練参加（南馬場地区）  
九度山中学校（四名）及び妙寺中学校（六名）  
職場体験学習実施
- 十二月 秋季全国火災予防運動実施（独居老人宅防火訪問）  
新規消防職員採用試験実施  
年末火災特別警戒実施

## 新人消防士の決意



「使命」  
消防士 大智 東

伊都消防組合に採用されてから、消防学校で、消防士として必要な技術や知識を厳しい訓練と座学によって、身につけてきました。自分にとってこの学校での生活はとても厳しいものでしたが、同期の仲間と支えあい励ましながら、長い6か月間を乗り切ることが出来ました。消防学校で自分は、体力的にも精神的にも大きく成長することができたと思います。

十月からは消防士として勤務についていますが、有事の際はすぐに出動しなければならぬので、緊張感をもちながら色々な訓練に取り組んでいます。現場では絶対に失敗は許されないので、最高の活動ができるように万全の態勢で備えるように心がけています。

また、消防署の中では自分は新人としてみられています。しかし、災害現場では住民の方々の目に二十年目の先輩も一年目の自分も同じ消防隊員として映ります。住民の皆様の消防に対する期待に応えるためには、先輩に少しでも近づけるように日々努力して進歩していくことが自分の使命だと考えています。そのためにこれからたくさん努力して、立派な消防士になれるように頑張っていきたいと思っています。



「誇り」  
消防士 巧 松浦

6か月間の初任教育では、消防の基礎から応用まで多くの知識や技術を学びました。

また、様々な訓練を通して肉体的にも精神的にも鍛えられ、人としても大きく成長できたと感じました。そして、同期生44名との集団生活を過ごしていく中で、チームワークの大切さを学ぶことができました。

署に配属されてからは、何事にも全力で積極的に取り組み、一日でも早く現場が必要とされる人材になろうと意気込んでいました。自分の考えは甘く、先輩方の仕事への姿勢はすばらしく見習うべきところがたくさんあります。自分は、まだまだ社会人としても消防士としても未熟で、消防学校で学んできたことはほんのわずかなことだと感じました。毎日が新しいことの発見で、自分がやるべきこと、勉強すべきことがたくさんあります。これからの消防人生で多くの経験を積み、先輩方に追いつき追い越せるよう日々努力していきたいと思っています。自分はどういう状況であっても、その場に応じた臨機応変な対応ができるようになり、地域の方々のかけがえのない生命や財産を守り、誰からも信頼される消防士になりたいと思っています。そのためには、自分に与えられた仕事を完璧にこなし、常に向上心と問題意識を持ち、最善をつくして頑張りたいと思っています。



## 救急医療週間

平成23年9月に紀北分院から4名の職員を招き、救急車同乗研修をおこないました。

また、普通救命講習では多くの住民の方に受講して頂き、救命に対する関心の高さをうかがい知ることができました。

## 一日救急隊 体験レポート



和歌山県立医科大学附属病院  
紀北分院

看護師 中村多江

9月8日、「一日救急隊」に初めて参加し、救急・消防の業務説明や庁舎見学、2度の救急車出動を経験し、救急訓練や消防訓練も体験できた。また、救急救命士の方に直接話を聞かせてもらい、救急業務の内容や地域医療の現状を知るよい機会となりました。

滑落による足関節骨折、打撲を受傷した患者の救急車要請に同乗した際には、現場での初期診療に立ち会い、また、目撃者からの通報が通信指令室に入り、出動指令や出動車両への無線連絡など、適切に救急活動をサポートしている状況を見ることができました。今まで、JPTECなどの研修に参加し初期診療について学ぶ機会はあつたが、実際の現場に遭遇することはありませんでした。今回初めて、初期診療に立ち会い、今まで研修で学んできたことが繋がるとてもよい機会でした。

受け入れてくれる病院を探すため各病院へ連絡を取っていたが、手術中や処置困難という理由で断られ、直ぐには受け入れてくれる病院が見つからなかったときは、近年、問題とされていた医療現場の問題が地元の地域にも存在しているのを改めて感じることができました。また、患者の状態によつては、地域の病院では処置や受け入れができない事例もあり、和歌山市内まで搬送することもあるというのを救急救命士の方から聞いて、地域に病院があつたとしても、医療現場の救急患者の受け入れ態勢や高度な医療が整っていないければ、患者を守ることが困難な場合もあると感じた。だからこそ、他の医療機関とのネットワークの充実をはかり、住民の命を守っていく必要があると感じました。

今回、「二日救急隊」に参加し、伊都消防署での医療現場を見ることができた。訓練を体験し、実際に現場に同行し、短時間ではあつたが消防隊、救助隊、救急隊の方の姿を見て、地域の医療や安全を守ってくれているのを強く実感した。そして、私自身も更に知識の向上や適切な観察や看護を提示していけるよう、自己研鑽していかなければならないと改めて感じた研修であつた。



和歌山県立医科大学附属病院  
紀北分院

看護師 北山智亜妃

今回の研修で実際に救急要請から病院までの救急業務に携わることができました。要請から出動までは迅速であり、現場に到着するまでの間に指令本部と連携し、患者の状態把握に努め、万全の

体制を整えていました。現場に向かう雰囲気は大変緊張感があり、人の命を預かっている責任の重さを痛感しました。現場での対応は素早く、あらゆる疾患を念頭に置いて状態観察しており、その状態から最も適した受け入れ先の病院を探すことに専念していました。一つ一つの場面での判断が、患者の今後に影響する為、その関わりが大変重要であると感じ、同じ人の命を預かる看護の仕事に対しても、改めて責任の重さと誇りを感じる体験になりました。

また救急車の中では、患者に何度も声をかけ、不安の軽減に努め、迅速な対応と患者への思いやる心は医療者に求められる大変大事なことである。体調の異変により、不安や恐怖を抱えている人にとつて救急救命士の声かけや対応で安心感が得られるのだと感じました。私も看護の場面において、その人の心に寄り添えるような関わりや声かけをしていきたい。そして、患者の少しの状態変化も見逃さず対応できるように、知識・技術の向上に日々努めていく必要があると感じました。

今年度は東日本大震災や今回の台風での被害などもあり、救急の現場への出動・派遣も多い状況であると話を聞いた。紀北分院からもチームを編成し、被災地への応援に行っています。日頃から事前準備を怠らず、いざという時に迅速に対応できるような医療体制や看護体制が必要であり、受け入れ先の病院側である私達看護師には使命感を持って現場に携わる必要がある。私自身も急変時の対応や災害に備えて、日頃からトレーニングをしていき、その一助となれるよう努めていきたい。



NEW  
救 急 救 命 士



消防士長  
小野 寺 弘 企

私は、一昨年9月から救急救命九州研修所で約7か月間、救急救命士として必要な知識と手技について学んできました。日々の勉強はもちろん、救急隊員として必要な接遇、法律についても学びました。

国家試験に合格するのは当たり前、各所属消防本部に戻ってから、いかに過ごすかです。救急救命士としての真価が問われると考えます。現在、日本は高齢化社会であり全国的に救急件数は増加しています。一分一秒を争う救急活動は、時に危険を伴います。

その中で、迅速に病態を把握し、少しでも傷病者やその家族の立場になって、最善の処置、搬送ができるよう心掛けたいと思います。医療は日々進歩しており、私達、救急救命士が行なえる処置も増えてきていますが、その根底にある傷病者やその家族への心遣いを忘れず、日々精進し、より多くの住民の方々に救急や応急手当に関する理解を深めていただくことも救急救命士としての役割だと考えています。



消防職員意見発表会入賞



昨年10月に平成23年和歌山県消防職員意見発表会が開催され、伊都消防組合の代表として嶋田雅一消防士長が、題名「他人の幸せを本気で考えること」で出場しました。

発表会では、自ら参加した東日本大震災の被災地でのボランティア活動の体験から、現地の厳しい現状を目のあたりにし、復興のためには、災害現場をよく知っている我々消防職員が先頭に立っていかなければならないことを強く訴えました。

甲種

防火管理講習会



財団法人日本防火協会主催による『甲種防火管理新規講習』を平成24年6月28・29日に開催予定です。

詳しくは、予防課までお問い合わせ下さい。

感謝状贈呈

応急手当普及啓発に協力!

当消防組合の応急手当普及啓発活動に必要な器具を寄贈して頂いた、次の企業に感謝状を贈呈いたしました。

橋本市  
紀北川上農業協同組合

積極的な行動で命を救う!

平成23年9月、ソフトボール競技中の男性が突然倒れ、意識がなくなりました。心肺停止の男性に対して行った応急手当(胸骨圧迫、AEDの使用)と素早い通報により大切な命を救った功績を称え、次の方々に感謝状を贈呈いたしました。

- かつらぎ町 阪本基文
- かつらぎ町 田中靖章
- かつらぎ町 中岡新悦
- かつらぎ町 羽根崇浩

(敬称略)

平成23年度 防火ポスター・防火標語入賞作品

防火ポスター

少年期から防火に対する知識を身につけ、家庭及び学校生活において火災予防の徹底を図ることを目的として、管内の各小学校の4年生を対象に防火ポスター、5年生を対象に防火標語を募集しましたところ、多数の応募をいただきありがとうございます。

これら応募作品を厳正に審査したところ次の方々が入賞されました。

特選

- 九度山小学校 牧野 光矩
- 四郷小学校 山本 由妃乃
- 三谷小学校 沼田 美夢
- 妙寺小学校 太田 結子
- 妙寺小学校 妙中 鈴奈
- 妙寺小学校 大山 くるみ
- 大谷小学校 岡村 陽舞莉
- 大谷小学校 坪井 仙理
- 大谷小学校 松本 夏実
- 大谷小学校 山下 榎宗

入選

- 大谷小学校 岡本 涼伽
  - 大谷小学校 宮崎 優一
  - 笠田小学校 大館 葉奈
  - 笠田小学校 小原 杏実
  - 妙寺小学校 坂本 一真
  - 妙寺小学校 前田 芳允
  - 妙寺小学校 松岡 麗々子
  - 志賀小学校 日浦 竣介
  - 志賀小学校 榎本 琉人
  - 九度山小学校 奈良 千尋
- 他佳作25名(敬称略)

優秀

- 應其小学校 靜 尚輝
- 應其小学校 向 真央
- 高野口小学校 東條 稔
- 高野口小学校 西本 系織
- 信太小学校 鈴木 愛理

優良

- 高野口小学校 大矢 安澄
  - 高野口小学校 小島 夕菜
  - 信太小学校 三浦 綾巳
  - 信太小学校 松岡 二三夏
  - 信太小学校 脇田 絵里
- 他入選15名(敬称略)



防火標語

最優秀賞

火をつけた あなたは消すまで 責任者

妙寺小学校 矢田 詩帆吏

優秀賞

「消したはず」「消したつもり」は 火事のもと  
消し忘れ 指さし確認 火の用心  
火のしまつ 点検、確認 忘れずに  
消したかな 確にんしてから 次の事  
ちよつとした 心のゆるみが 火事のもと  
ちよつとまで でかける前の さいかくにん

笠田小学校 高水 麻彩  
妙寺小学校 川崎 亜友  
高野口小学校 西山 友梨  
高野口小学校 石原 渚  
應其小学校 北岡 朋華  
應其小学校 加勢田 一輝

佳作

みつめてる 命を守る 警報き  
最後まで 責任もとう 火のしまつ  
気をつけて 消したと思う 思いこみ  
火災から 家を守るよ 警報器  
寝る前の 確認一つで 火事防止  
火遊びを やるな やらすな 見のがすな  
ガスつけて そばをはなれる おそろしさ  
火の用心 明日の幸せ みんなの笑顔  
火事発見 かける番号 一一九  
もう一度 あなたのその目で たしかめて  
あぶないよ 消したつものの 火の始末  
出る前に 再度確認 火のチェック  
消したかな 声を出して 再確にん  
消えるまで 見とどけていて あなたの火  
気をつけて! 消したつもりが 命とり  
「火は消した?」ほんの少しの 心がけ  
メールより 大切なのは 火の始末  
心がけ みんなで守ろう 火の始末  
確認は 明日へつながる 道しるべ

信太小学校 岡本 梨沙  
應其小学校 森田 波樹  
高野口小学校 堀 愛由美  
高野口小学校 福永 梨乃  
高野口小学校 田中 栄気  
高野口小学校 大久保 政喜  
高野口小学校 植阪 せい  
高野口小学校 安川 椋  
高野口小学校 石田 鳳聖  
高野口小学校 西口 昂希  
高野口小学校 西川 采花  
高野口小学校 羽根 彩華  
妙寺小学校 防野 千瑛  
妙寺小学校 森本 伊万里  
笠田小学校 高岸 奈津子  
笠田小学校 稲本 麻衣  
笠田小学校 西中 花音  
古沢小学校 下坊 舟人  
九度山小学校 藤田 光紀

(敬称略)



職 場 体 験

高野口中学校・妙寺中学校・笠田高等学校・かつらぎ町役場・  
九度山中学校・笠田中学校・地域社会体験



伊都消防組合では、管内の中学生・高校生・かつらぎ町役場職員の方々が消防署にやって来て、実際に消防署の仕事を経験する「職場体験」を行っています。  
救急訓練・放水訓練・救助訓練など、真剣に取り組んで頂きました。  
この体験した事を通じ、「命の大切さ」、また消防士として働くことの喜びや苦労を知る良い機会になってくれればと願っています。

火 災 予 防 運 動

秋季火災予防運動に伴い、幼年消防クラブ員達が防火パレードを行い、「火の用心」を地域の住民に呼びかけ、小さなかわいい消防士ぶりを発揮してくれました。  
実施機関は次のとおりです。

〔かつらぎ町〕

- ・笠田保育所・四郷保育所
- ・中部保育所・中飯降保育所
- ・花園幼稚園・妙寺保育所

〔橋本市高野口町〕

- ・香久の実保育園・名古屋保育園
- ・高野口こども園・伏原保育園

〔九度山町〕

- ・河根幼稚園・九度山幼稚園



私達の地域は

私達が守る！



年末夜警

笠田女性防火クラブ

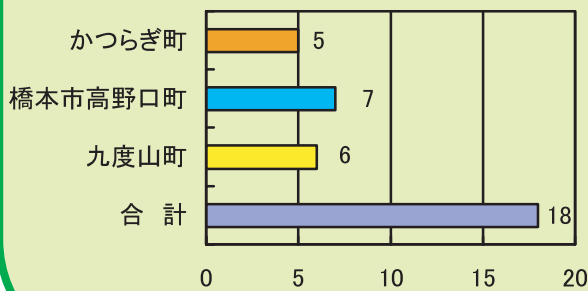
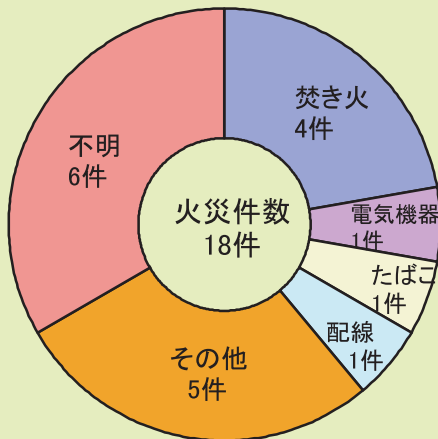
# 消防白書2011



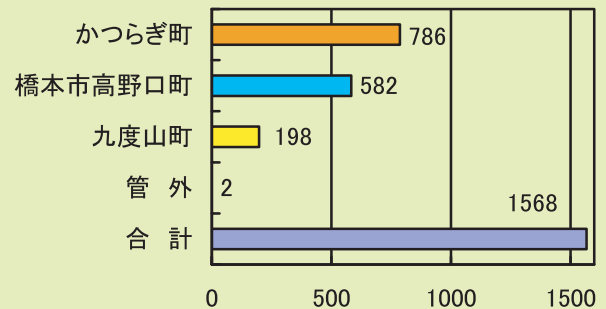
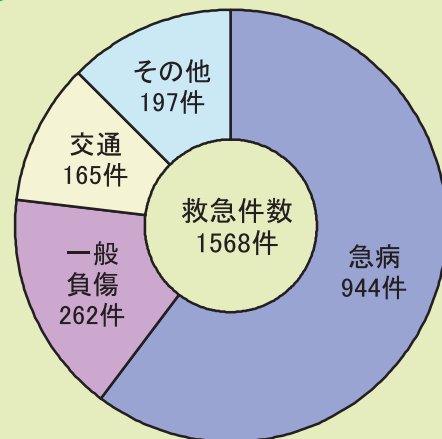
平成23年中に当署管内で発生した火災件数は18件で、昨年より3件増加しています。出火原因のほとんどが人的要因であることから、住民一人一人の心掛けで火災を予防、減少させる事ができると考えられます。

また、救急出動件数は1,568件で、昨年より19件増加しており、1日平均約4件出動したことになります。なお、支援出動件数（傷病者が心肺停止・呼吸停止していると予想される場合若しくは困難な活動が予想される場合又はドクターヘリ要請時において地上の安全を確保するための消防隊の出動等）は23件増加の148件で、内ドクターヘリの要請に伴う支援出動は10件となっています。

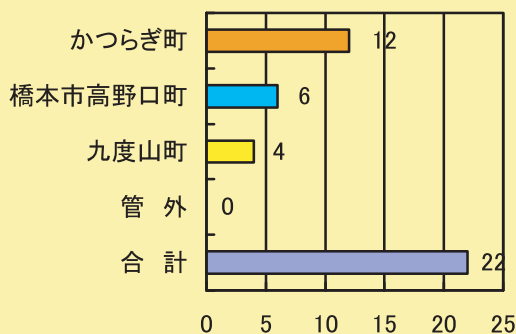
## 火災



## 救急



## 救助



## 支援

